

真駒内地域 小規模校検討委員会ニュース

※真駒内地域小規模校検討委員会では、子どもたちのためのよりよい教育環境の実現のため、学校統合に向けた具体的な事項について検討を進めています。

今回は12月3日に開催された第2回検討委員会についてお知らせいたします。

◆第2回検討委員会における検討

平成20年12月3日午前10時より、真駒内曙小学校にて開催された第2回検討委員会では、統合のパターンについて検討が行われました。

●検討委員会ニュースについて

小規模校検討委員会ニュース【第1号】についても、【準備号】と同様に各学校から家庭に配布するとともに、町内会の協力を得て地域にお住まいの方々へ回覧していただいています。

また、まちづくりセンターや児童会館を始め、地域の幼稚園、保育園などにも備え置いていただくようお願いしています。



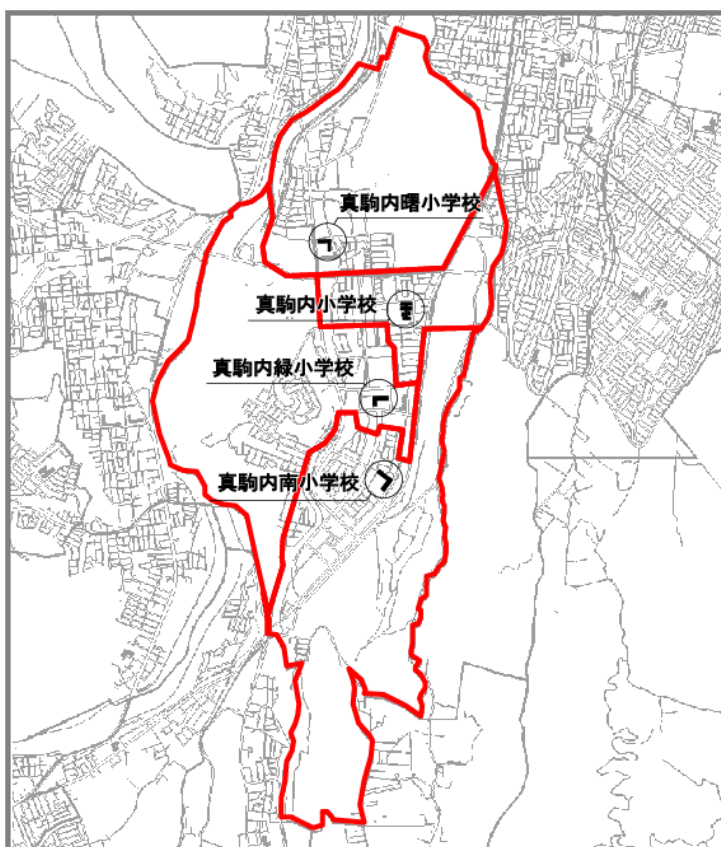
■ 真駒内地域の現在の通学区域 ■

●統合パターンの検討について

現在の通学区域による、学校統合の組み合わせについて、統合した場合に見込まれる学校規模や通学距離の観点から、検討を行いました。

統合パターンごとの考えられる課題やメリットについては、次ページ以降をご覧ください

(右の図は、真駒内小学校、真駒内南小学校、真駒内曙小学校および真駒内緑小学校の現在の通学区域を表したものです。)



統合パターン

Aパターン

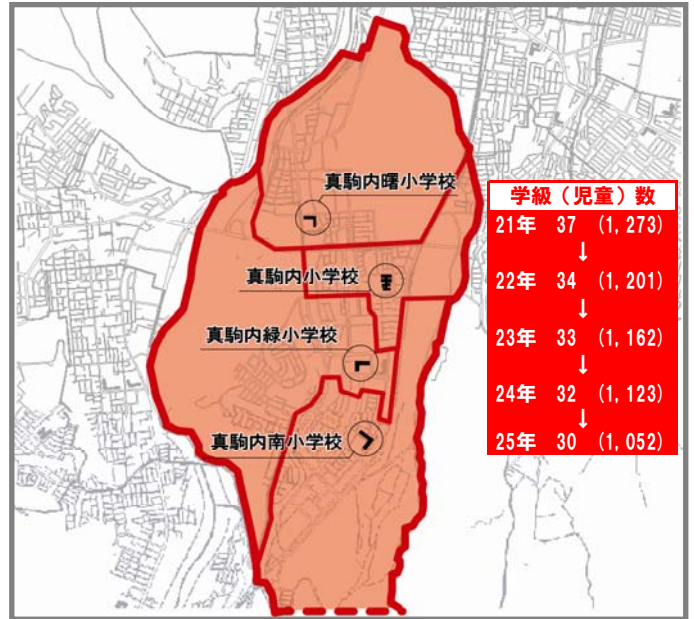
■ 真駒内小 + 真駒内南小 + 真駒内曙小 + 真駒内緑小

【メリット】

- ・全ての学年でクラス替えが可能となり、人間関係の固定化が解消される。

【課題】

- ・適正規模を超えて大規模校となる。
- ・児童を一校に収容できない。
- ・統合校の位置がどこになっても、通学距離が2kmを超える児童が出る。



Bパターン

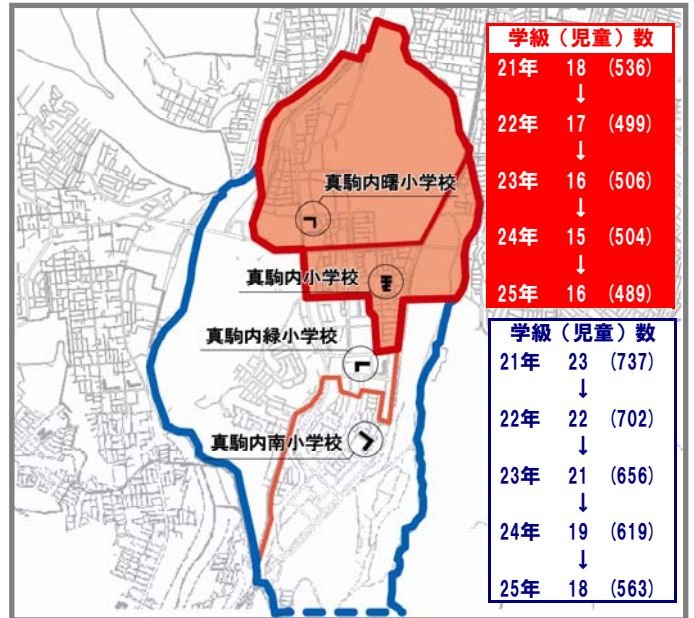
■ 真駒内小 + 真駒内曙小 ■ 真駒内南小 + 真駒内緑小

【メリット】

- ・どちらの組み合わせでも、全ての学年でクラス替えが可能となり、人間関係の固定化が解消される。

【課題】

- ・現在の校区を基本としているため、両校の児童数に差が生じる。
- ・統合校の位置によっては、通学距離が2kmを超える児童が出る。



Cパターン

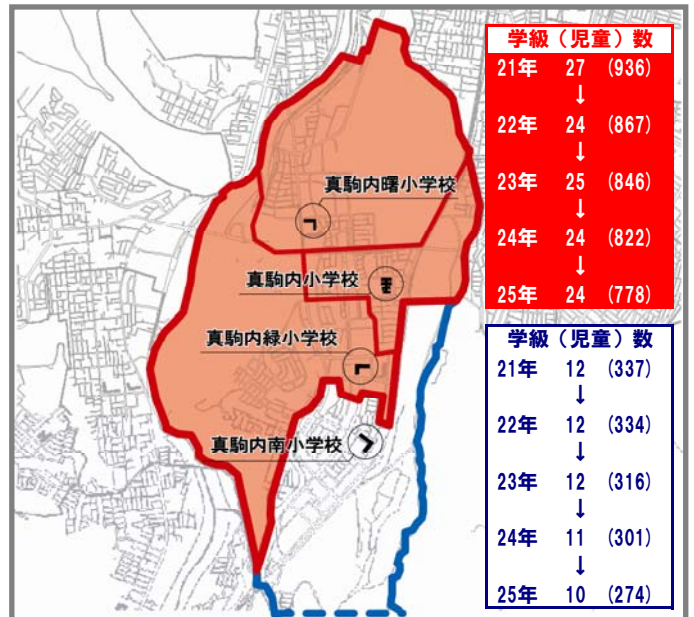
■ 真駒内小 + 真駒内曙小 + 真駒内緑小 ■ 真駒内南小

【メリット】

- ・真駒内小 + 真駒内曙小 + 真駒内緑小の組み合わせでは、全ての学年でクラス替えが可能となり、人間関係の固定化が解消される。

【課題】

- ・真駒内小 + 真駒内曙小 + 真駒内緑小の組み合わせでは、統合校の位置がどこになっても、通学距離が2kmを超える児童が出る。
- ・真駒内南小では、H24年には、クラス替えが出来ない学年が発生する。



■ Dパターン ■

■真駒内曙小

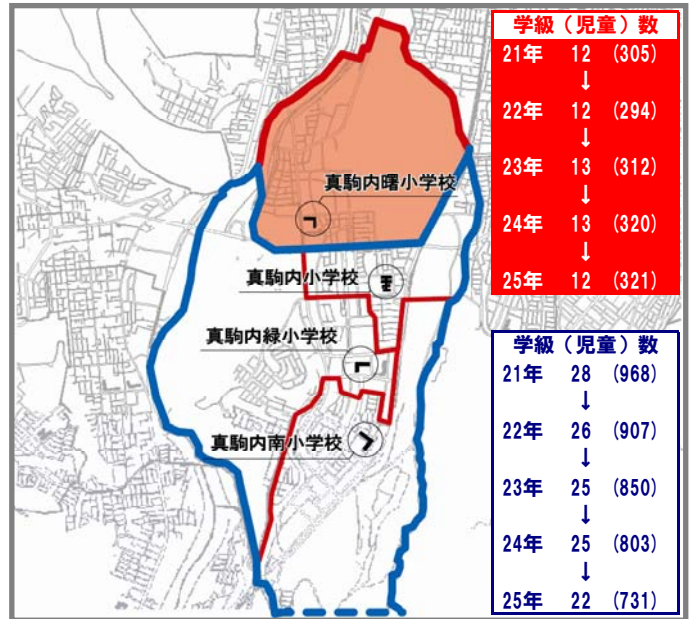
■真駒内小+真駒内南小+真駒内緑小

【メリット】

- ・どちらの組み合わせでも、全ての学年でクラス替えが可能となり、人間関係の固定化が解消される。

【課題】

- ・真駒内小+真駒内南小+真駒内緑小の組み合わせでは、統合校の位置がどこになっても、通学距離が2kmを超える児童が出る。



各委員から寄せられた意見

■今回示された統合パターンについて

- ・Aパターンは通学区域が広くなりすぎて、選択肢にならない。
- ・4つのパターンの中では、Bパターンが最も適当だが、児童数のバランスをもう少し考慮する必要があるのではないか。
- ・地域の地理的な状況から、東西の分割は考えられないため、南北の分割で検討すべき。
- ・現在の通学区域にこだわらずに検討すべき。
- ・中学校区にあわせたパターンも検討すべき。
- ・地下鉄真駒内駅の「駅前通」で分割するパターンも検討すべき。

■検討に際して注意すべき点について

- ・特に1年生のことを考えると、通学距離が2km以上にならないよう配慮すべき。
- ・真駒内本町、東町、柏丘、南町などの地域からの通学に配慮すべき。
- ・通学距離も考慮する必要があるが、それよりもむしろ、通学路の安全を配慮することが重要ではないか。
- ・子どもの通学に関しては、町内会などを通じて地域ぐるみで安全を守っていく必要がある。
- ・新たな学校の通学区域を考える際には、これまでの地域との関わりというものを視野に入れて検討する必要がある。
- ・統合位置にならない（校舎を使わない）小学校にとっては、吸収されたという意識が残ってしまう。だからこそ、結果として、すごくいい学校ができたと思えるようにしていかなければならない。

第2回検討委員会での決定・確認事項

これらの検討から、第2回検討委員会では以下の事項が決定、確認されました。

○次回は、現在の通学区域にこだわらずに、真駒内地域を南・北に分ける形で、児童数や通学距離、中学校区の関係などを考慮しながら、引き続き統合パターンの検討を行う。

○小学校の校舎は、札幌市の所有する他の鉄筋コンクリート造りの施設と同様に、「60年」を目標耐用年数としていることから、既存の校舎を活用していくことを前提として検討する。

○徒歩通学可能と考えている通学距離2km以内の統合を基本に検討を行う。
○検討の結果、通学距離2kmを超える地域が生じる場合にも、既存の路線バスの利用と通学交通費の助成制度の活用を前提としているため、スクールバスについては検討課題としない。

第3回検討委員会について

次回の第3回検討委員会（1月下旬開催予定）では、引き続き、統合再編のパターンについて検討を進めていく予定です。

■ 真駒内地域の皆様からのご意見をお待ちしております ■

検討委員会では、地域の皆様の意見も踏まえ検討を進めていきます。

ご意見は、下記の検討委員会事務局までお寄せください。

■ 真駒内地域小規模校検討委員会事務局

札幌市教育委員会 総務部計画課（配置計画担当）

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 STV北2条ビル5F

TEL 011-211-3836 / FAX 011-211-3837

E-Mail haichikeikaku@city.sapporo.jp

※この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載しています。

http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/shokibo_kentou.html